

# ひめまつ

(理事長用)

35

創立80周年記念特集



武幸

宇都宮短期大学附属高等学校生徒会

ひめまつ 目次 第三十五号

表紙絵……島田武幸 題字……石川木魚

写真……写真部・伊藤礼一

創立八十周年を祝う……………(栃木新聞から)……………1

【あいさつ】創立八十周年にあたりて……………理事長 須賀友正……………2

祝辞・人材育成に功績……………栃木県知事 船田 譲……………3

◇八十周年記念特集……………5

抑えがたき感激……………吉井のぞみ……………録キミ江

永年勤続者表彰……………斎藤教頭 ほか……………大岡テイ

記念品贈呈にあたりて……………松岡祐祥……………福田アキノ

祝歌について……………松岡祐祥……………五十余年前の本校……………吉井スィ

希望に充ちた前途……………松岡祐祥……………百聞堀時代の思い出……………吉沢光子

ⅢⅢⅢ栄光の日をうたう(随想・詩・短歌・俳句)生徒作品……………13

若林楓子・館沼光子・松本ろり子・佐野裕子・間板茂子・沼尾ひろ子 外

須賀学園八十年の歩み……………18

▽本校創立八十周年に当って……………校長 須賀 淳……………あつし……………20

自主性をもって活動する(新生徒会長の抱負)……………鈴木久世……………23

栄光の年・会長としての喜び(前生徒会長)……………吉井のぞみ……………24

校内読書感想文コンクール入賞作品

三年・田子悦美 二年・進藤裕子 一年・藤田安秀 外

詩

菊元英子・福田ゆう子・加藤近子・遠藤恵子・宮本敦子・久島緑  
湯沢光江・篠原博・黒川紀子・小川由美子・福田保 外

声——学園と家庭・その折々

二年・増淵明子 三年・山川昌子 三年・我妻文子 二年・滝沢律子  
二年・福田ゆう子 二年・杉田 淳 三年・太田規子 三年・針谷和子  
三年・黒川紀子 三年・龍福瑞穂 二年・橋口佐登美  
亦論大会にて ●優良賞● いたわり合う心・吉井のぞみ ふれ合い・青年の主張大会・奥寺引美  
風紀・保健・文化・体育など

委員会・クラブこの一年

▼短歌.....81

招待席先生方の随筆コーナー

往年の寄宿生の歌 寺内恒夫 私的幸福 大谷武  
八月十五日に思う 伊沢雪夫 生きている 杉本育夫  
季の移り 篠崎久介 弓道に生きる 広川博  
ひめまつと私 手塚武

特別寄稿

詩 「光の渦の巻く中で」

短歌 「学園風景」

わしらのホームルーム・がんばっています！

(三年、二年、一年)

手塚 武  
寺内恒夫

特集 共通の広場で語ろう

インターアクトの研修 吉井のぞみ 保母さんになりたい  
厳しい責任感 岡田千恵子 その日のことはその日に  
日々これ新た 藤井範子 大切なことばづかい  
校内賞は全部頂く 佐藤八重子 自信をつけよう  
青少年非行化防止 吉井のぞみ 私もお仲間

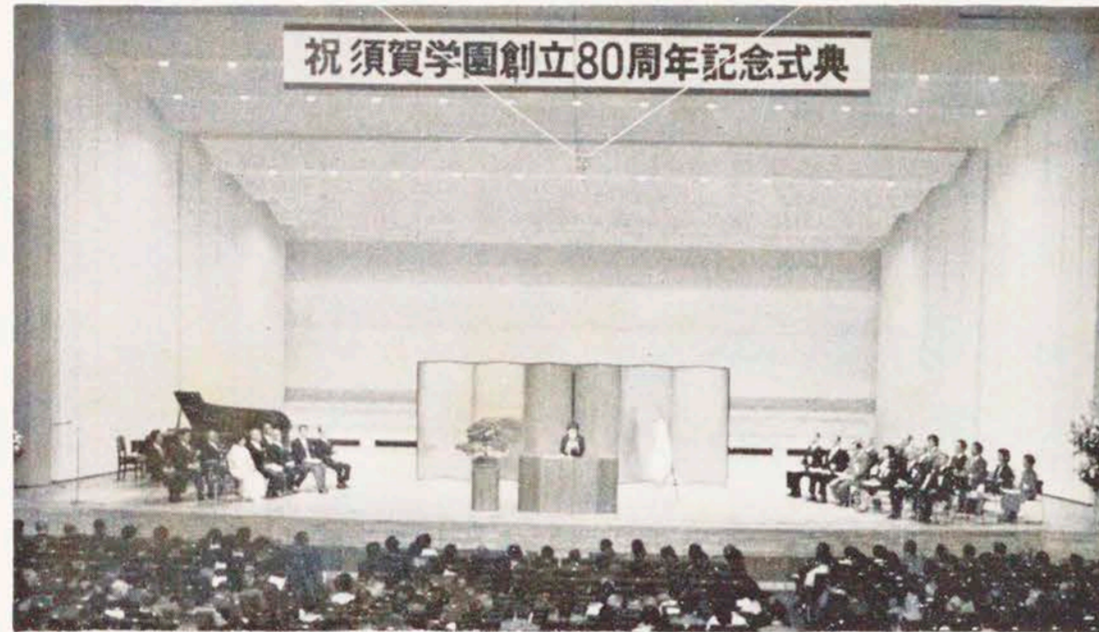
▽学園ニュース・トピック△

学友会が奉仕活動(鹿沼・石橋地区ほか)  
家政科検定試験合格者とその状況  
本年度の就職状況一覧

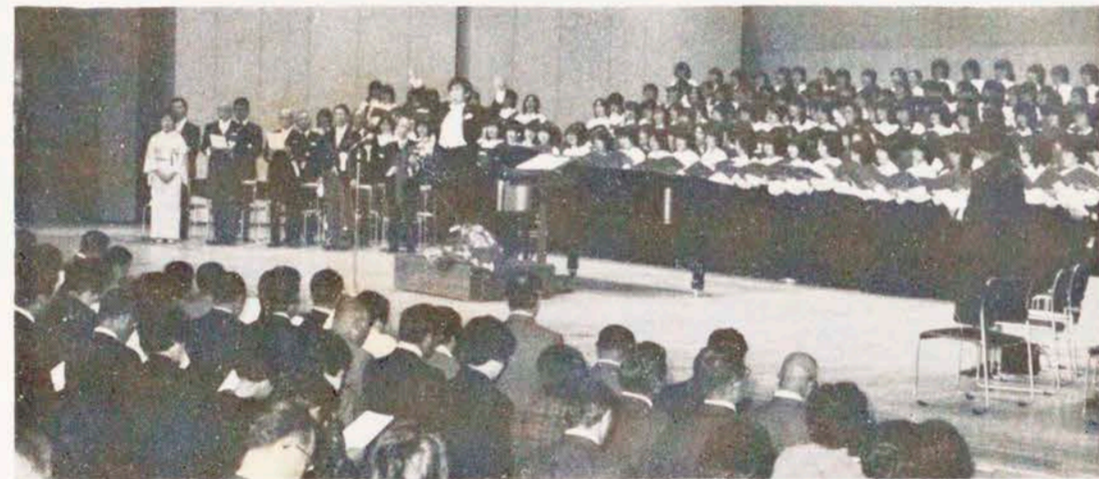
昭和五十五年度生徒会役員.....135  
昭和五十五年度行事及び予定.....136

職員住所録.....137  
編集後記・奥付.....140

輝く本校創立80年



創立80周年記念式典（於宇都宮市文化会館）



「讃歌」のあと・参加者全員で校歌の大合唱 指揮は田淵先生



PTA会長の謝辞をうけられる理事長先生

校 歌

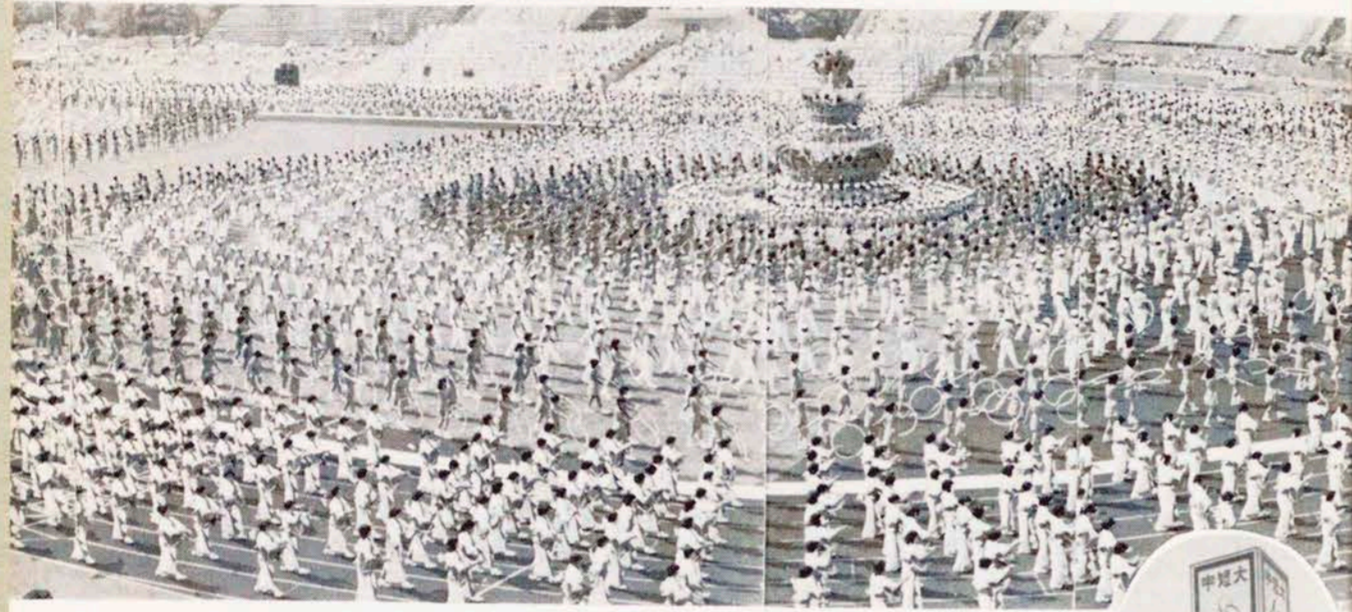


宇都宮短期大学附属高等学校校歌

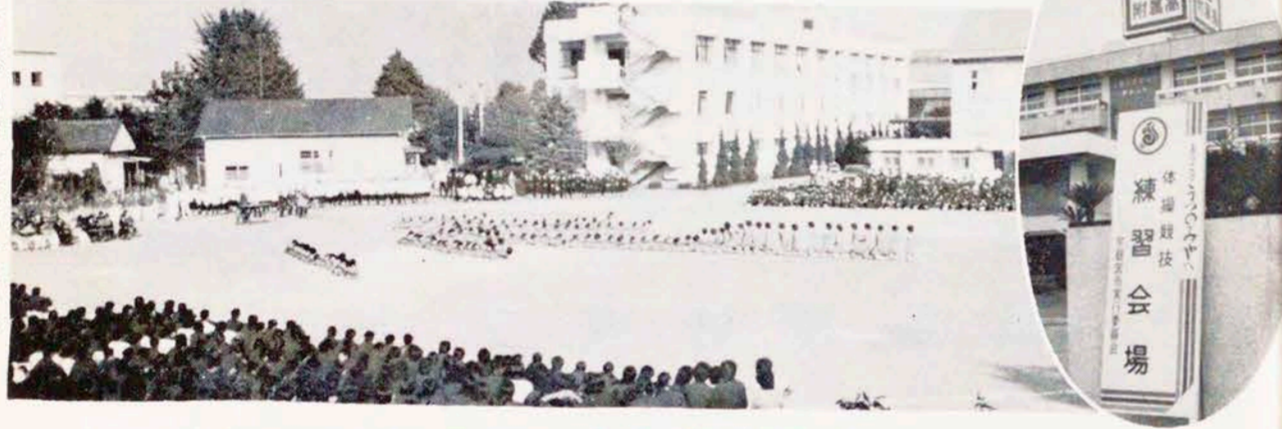
一  
二 荒の高嶺を  
学 びの道筋  
か たみに誓い  
て  
教 えの庭こそ  
あ われ尊  
遙かに仰ぎ  
まさきくあれと  
いそしみ励む  
げに尊けれ  
この学びや

二  
庭面に茂れる  
変らぬ操は  
かたみに祝いて  
あわれ芽出度  
千代万代と  
いそしみ励む  
げに芽出度けれ  
この学びや

伸びる力・結ぶ心・ひらく明日…国体も華やかに



国体出場生徒の激励会



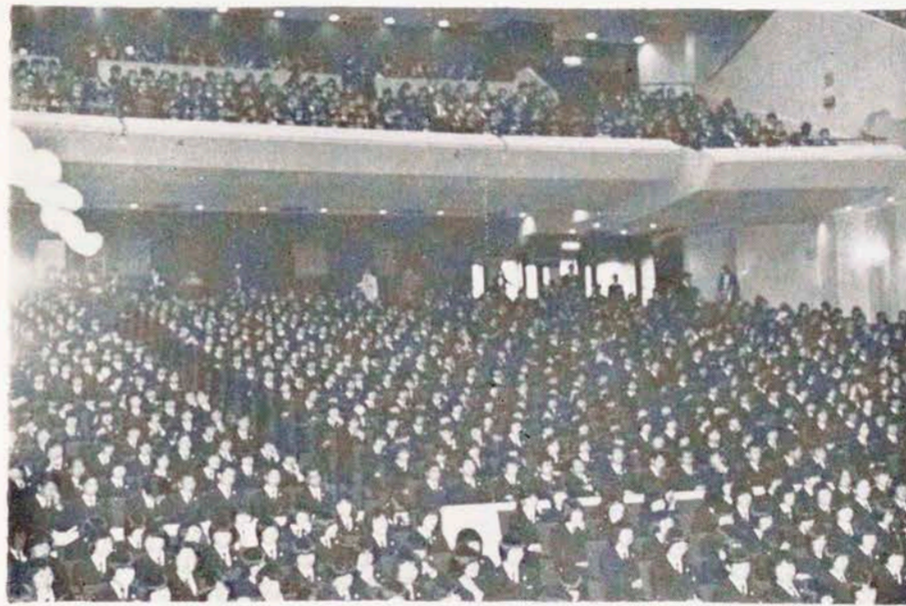
堂々と国体首頭を歌う増淵さん



補助員のユニホーム姿



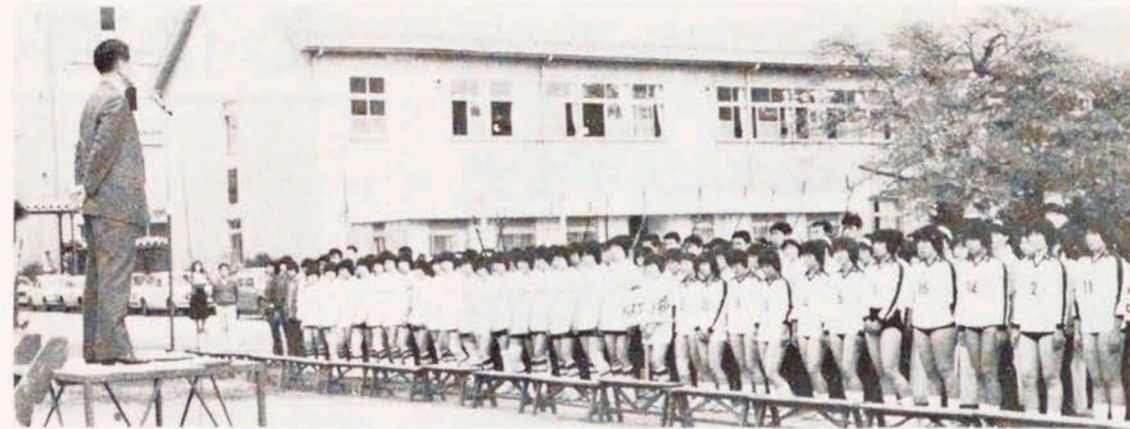
同窓会や生徒会からの花束をうけられる理事長



全校生徒が参列しました。



式典後の祝賀パーティーで挨拶される理事長先生



県総体出場選手を励ます会で激励をする校長先生

新人大会優勝のメンバー(弓道部)



国際理解高校生の主張コンクールで二位に入賞した吉井さん



県高校選手権で優勝したバスケット部員



関東吹奏楽コンクール県大会で銀賞をとったブラスバンド部



生徒会新役員 大ハッスル/やりますよ!



校内球技大会



今年も敬老の日にプレゼントをしました。

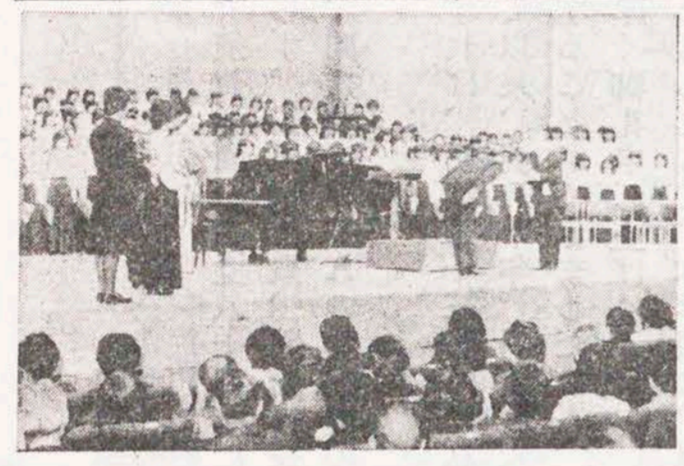


PTA研修会の記念写真



校内合唱コンクール

# 創立八十年



【須賀地区文化館】ホールの一角に、須賀学園創立八十年を記念して、展示された制服の展示室。

## 須賀学園

### 創立80周年を祝う

#### ユニークな教育で発展

須賀学園は、創立80周年を記念して、須賀地区文化館のホールに展示室を設け、創立80周年の歴史を振り返る展示を行っています。展示室には、創立以来の制服の展示や、学園の歴史を語るパネルが並び、来場者は、学園の歩みを感じながら、展示室をめぐることができます。

須賀学園は、創立80周年を記念して、須賀地区文化館のホールに展示室を設け、創立80周年の歴史を振り返る展示を行っています。展示室には、創立以来の制服の展示や、学園の歴史を語るパネルが並び、来場者は、学園の歩みを感じながら、展示室をめぐることができます。

(55.11.7 付栃木新聞より転載)

## 文化祭



創立80年の歴史が一目でわかる校史室



制服の移りかわりも……



お客さんもたくさん展示室



体育館が大食堂になりました。

# 創立八十周年に当たりて

須賀学園理事長 須賀友正

本日は、須賀学園の創立八十周年にあたり記念の式典を催しましたところ、御多忙中にもかかわらず、船田知事殿、増山市長殿、各議員の先生方をはじめ多数の御来賓の方々、ならびに、同窓会、PTAの皆様方の御来臨をいただきまして心から感謝いたしております。

顧みますれば、明治三十三年に、私の母須賀榮子が二十七歳の女性の身をもつて本学園を創立して以来、満八十年。明治・大正・昭和と三代にわたる風雪に耐え、一筋に人間教育に邁進することができましたのも、ひとえに皆様方の御指導と御支援によるものであります。まして、厚く御礼申し上げます。

おかげをもちまして、本学園は、現在、普通科、家政科、商業科、調理科、音楽科の五つの科を持つ高等学校の上、さらに短期大学を加えて、日本の教育の一端をになわせていただいております。本学園の学生生徒数は二、六〇〇名、卒業生は二六、〇〇〇名の多きに及び、それぞれ「一人は一校を代表する」の生活目標のもとに、社会において有為な活躍をしております。

時あたかも、今年は一九八〇年、昭和五十五年という、まことに区切れのよい年であり

ます。この秋に、奇しくも本学園が創立八十周年を迎えることができましたことは、なにかの縁かと思われまふ。さらに私自身も、若いつもりではおりますが、暦の上の年令では数えて本年八十歳になります。これまた何かの縁と感じられます。

今日という日で一区切をつけ、さらに大きな未来に向つて力強い第一歩を踏み出そうとする秋、私の胸には勃然と新しい勇気が湧いてくるのを禁じえません。

須賀学園創立八十周年、皆様本当にありがとうございます。本学園が今日あるのは、ひとえに皆様方のあたたいお力添えの賜であります。

その御厚情に報いるためにも、私は一七〇名の教職員と共に協力一致、本学園の発展、充実と学生生徒の教育に邁進する覚悟であります。

皆様方におかれましては、これからも末永く本学園に対し、変らぬ御指導と御鞭撻を賜りますよう心からお願ひ申し上げて、御あいさついたします。  
(祝典のあいさつより)

## 祝辞 人材育成に功績

栃木県知事 船田 譲

本日、ここに宇都宮短期大学附属高等学校創立八十周年の意義ある記念式典が挙行されるに当たり、一言お祝いの言葉を申し上げます。



本校は、明治三十三年十一月、須賀榮子先生によって創立され、以来「一人は一校を代表する」という校風のもとに、社会の移り変りとともに、幾多の困難を乗り越え、ここに八十年の光輝ある伝統を築きました。これは創立者はもとより、学校関係者各位のなみなみならぬ御努力によるものでありまして心から敬意を表する次第であります。

申すまでもなく、教育の目的は人格の完成をめざし、平和な国家社会の建設に貢献する心身ともに健康な国民の育成を期すことにありますが、この目的達成のため私学教育の持つ役割及び重要性は今さら多言を要しないところであります。

また、教育の効果はその環境に負うところが誠に大であります。本校は勉学に適した理想的環境のなかにあつて年々施設設備の充実に努められ、建学の精神と特色ある校風のもとに、心豊かな有為な人材の育成のため尽された業績は誠に偉大なものがあります。

一九八〇年代を迎えた今日、国際化時代にふさわしい人間性の向上と能力の開発が叫ばれている時に当たり、創立八十周年を記念して本式典が挙行され、輝かしい伝統の上に更に将来の発展を期されますことは、極めて意義深い慶事でありまして、誠におめでたく心からお祝い申し上げます。

どうか、今後とも全校一致の御努力とPTA及び卒業生各位並びに関係各位の御協力により、本校がますます隆盛なる前途を開拓され、本日の式典をして真に光彩あらしめられるよう念願してやまないものであります。

終わりに臨みまして、本日の慶典を機として、本校のますますの御発展と、御出席各位の御健康を祈念いたしましてお祝いの言葉といたします。

(昭和五十五年十一月六日)

## 抑えがたき感激

栄えの式典に参列して

生徒会長 吉井のぞみ

菊の香かおる今日よき日に、多数の来賓の方々のお臨席をいただき、私達の学校の創立八十周年記念式典が挙行されました。この栄えある時に在学することできました私達生徒一同は、よこごびに胸があふれ、感激を抑えることができません。

私達の学校では、毎年十月十四日の、創立者須賀榮子先生の御命日には、校長先生のお話をお聞きして、そのあと各クラスの代表が八幡山のお墓にお参りをいたします。それによって私達は、榮子先生の建学の精神を偲び本校の歴史の重みを受けとめ、輝く伝統を発展させようとの意欲を燃やすのです。

榮子先生は、生まれて間もなくお母様をなくされたので、母親がわりの一番上のお姉様に育てられたとのことです。そのお姉様は武士の家の育ちであるうえ、明治天皇の皇女様づきの女官をしておられた方ですので、礼儀作法、言葉づかい、服装容儀などのしつけがとくにきびしかったときいています。本校で今も大切にされているしつけ教育は、このお姉様から幼い榮子先生に施こされ、榮子先生から現在まで、本校の教育方針として受け継がれているものです。

昭和の時代に入り、第二代の須賀友正校長先生、第三代の須賀淳校長先生と、本校はますます発展の一途をたどって、現在二、四〇〇名の生徒達が、雨にも負けず、風にもめげずに、互に切磋琢磨、

それぞれ勉学の途に励んでいます。そして私達の生活の土台は、建学以来のきびしいしつけ教育であり、また永い伝統の中から生まれた「一人は一校を代表する」という生活目標です。

「ローマは一日にして成らず」といわれますが、八十年の永きにわたって築かれた本校の輝かしい伝統の上に立って、私達生徒一同は、先生方の御指導のもと、理想に向かって一歩一歩たしかな歩みを続けようとして、今日の日を期して、さらに心を新たにしています。

どうか来賓の方々ならびに同窓会や御父兄の皆様、そして先生方には、私達生徒に対して、ときにはきびしく、ときにはやさしく、たえざるお導きを賜わりますようお願いいたします。

本校創立八十周年の記念すべき日にあたり私達の覚悟の一端を申しのべて、ごあいさついたします。

——生徒会を代表しての祝辞——

## 永年勤続者の表彰

「ほんとうにご苦労さまでした」

理事長あいさつに次いで、本校永年勤続者の表彰が次のとおり行われました。(順不同)

▽理事 星 功 高野 耕

▽PTA会長 高山 源吉

▽教職員 斎藤太嘉男 戸室文子 関部シズエ 太田茂雄 松

本照子 大島威二 宇梶芳蔵 手塚 武 廻谷和子 伊沢雪天

築島 亨 渡辺欣子 村岡信子 三矢静江 河住 玄 島村チヨ

松井季男 清水徹 新井好寿の皆さん。

## 記念品贈呈に当たりて

代表 松岡祐祥

本日、須賀学園創立八十周年の記念式典が盛大に挙行されたことは、本学園の御縁につながる私達一同、心からうれしく思っております。

本学園が今日の隆盛を見るにいたりましたのは、創立者須賀栄子先生の御功績によることはもちろんであります。その御遺志を受け継いで、戦前・戦中・戦後の五十数年にわたり、校長および理事長として、また短期大学の学長として、本学園の人間教育に御尽瘁くださいました須賀友正先生の御功績によるものと思えます。

私達、同窓生、PTA、後援会、教職員、学生生徒一同は、先生に對し、ささやかではあります。記念の品を贈り、先生の御苦労に對して感謝の微意をあらわしたいと存じます。

先生には、私達の意のあるところをお汲みとりいただいて、お納めくださるとともに、こんごともますます御壮健で本学園のために御活躍くださるようお願い申し上げます。

これに對し理事長から次のような感謝のことは述べられました。「ただいまは、同窓会、PTA、後援会、教職員、学生生徒の皆様方から、記念品ならびに花束をいただきまして、感激これに過ぎるものではありません。皆様方のありがたいお気持ちにこたえるためにも、さらに健康に留意し、こんごとも本学園の学生生徒の教育に微力をつくすことをお

誓いし、御礼のことばをいたします。どうもありがとうございます。」

## 祝歌について

「祝歌」は田淵進先生の指揮のもと、短大、高校三百名の生徒による「ああ喜びのこの館よ」（ワグナー作曲、楽劇「タンホイザー」より）と手塚武作詞、楊枝郎作曲の「宇都宮短大讃歌」の大会唱で、多大の成果をおさめた。讃歌の歌詞はつぎのとおり。

### こののちに

燃ゆる火の歡喜  
山の八汐は花盛り  
花さかり

雪解け水を  
押し流して  
ごうごうと  
みなぎる河

あなたの焔を  
あかあかと点して  
心のつぼみが花開く  
花ひらく

りした知識が身につく、教養を次第に高くしていくことかと思われず。

今年創立八十周年、去る十一月六日、市の文化会館に於て、八十周年の記念式典が盛大に開催されましたが、その中の生徒代表の言葉の中に、学園の創立者須賀栄子先生の人となり述べていたが姉上様が宮中に仕えておられた事もあって、挙措進退が誠に厳正な方であられたと言う。その姉上様の薫陶を受けた栄子先生は、自らを律する事に大変厳格な方であったという。現在の付属高校の生徒が礼儀正しく、言葉づかいは丁寧、人には親切に、美しく、女として、人間として、最も基本的な教育は、創立者の栄子先生の建学の精神によって始められたものである。明治、大正、昭和の三世代を幼い時から厳しく下学された高邁な精神で経営して来られ、その業績について友正先生は戦前戦後の大変難しい時代をくぐりぬけて、今日の隆盛な学園に成長させて来られた、又その輝やかなしい業績を淳先生がうけつがれ、なお一層のみがきをかけられている。

つい先日宇都宮短大後援会の懇談会の折、その会長の丸山氏は、県警音楽隊の指揮者でもあるが、今年の栃木国体の音楽は、栃木県の音楽の程度の高さを示し、本部からも又各県の識者からも絶賛を呈されたとの事であり、これも当学園にいち早く高校に音楽科を設け、音楽短大を設置した結果もたらされたものである。と国体の時の面目をほどこした事を心から嬉しそうに話してくれた事であった。八十周年と国体と音楽とはタイミングのよい事でもあったが、やはり誠に喜ばしい一事であった。

また設置されている調理科も県内の料理屋さんや各ホテルからも大好評ではないかと思われる程の発展ぶりである。その上最近出来

すべての幸に

火を点して

歌の花輪をかざそう

天の涯 地の極みまで

う た

悲しみをこらえている人びとのために

わたしは弾き ぼくらは歌う

うたごえは低く 小さくとも

心はこの世の隅々をひたし充ちはじけた

それを聞くのは誰だろう

貧しい巷のお母さん

優しいふるさとのお母さん きょうだい達

## 八十周年記念特集

### 希望に充ちた前途

PTA会長 松岡祐祥

「下学して上達す」論語の中の孔子の言葉の一節である。身近かなことから学び次第に高みに上る、人それぞれに、自分の身のまわりから学び始め、順序を踏んで難しいことを学び、しっか

た普通科の進学コースは、男女それぞれに大きい反響を呼び、志望しても入れない生徒が数百人も出来るという状態である。その発展ぶりはまことに目まざましいものがあるが、このような時に創立八十周年を迎え、学校では約二億円をかけて校舎を整備し、体育館の修復等を行ったが、PTAとしてもその一部をと校門の新設、塀の建築等にと昨年より一年間を費して約二千五百万円を、学校側の熱意に応えるべく寄付する事が出来ました。

ここにPTAの皆様のご厚意を感謝すると共にますます上達せんとして、学校に期待し、更に家庭においても、学校においても出来ない教育もある事を忘れず、我が子に、下学させる事にとめてほしいものである。

### 恩を仇でかえすな

同窓会長 篠崎 キミエ

昭和十三年支那事変で父を失った時私は小学六年生でした。進学のために課外勉強をしていた私を特待生として迎えて下さるとの話に喜んで本校を選びました。幸い県からも教育の補助があり、お陰で私は母に苦勞をかけずに好きな勉強をさせて頂けたのです。これ偏に友正先生の御厚情の賜と忘れたことはありません。又本校三年の時將來のためにと夜間の部で亀田学院で邦文タイプを習ったのですが、ここでも特待生として授業料を免除してくれたのです。十八年三月本校卒業当時海外発展が叫ばれていたので学校の名譽のためにと名乗り出て大陸に渡り満鉄でタイピストとして働きました。十九

年兄が入隊し、母一人になった家に戻り二十年一月より学校からの勧めで中島飛行機株式会社に入社、教育課で動員生徒で会社に来ていた後輩達のお世話をしました。兄も戦死、残された母と私は父兄の分まで社会のために尽くそうと誓ったのです。恩を仇で返すなどの言葉に私は戦争によって受けた仇を恩で返したいと社会のために活躍してきました。

戦後青年団に入り郡、県の副団長として二十五年の夏には日光で開催された全国大会で成人の日の法制化についての提案理由説明をし、国会、文部省大蔵省等請願陳情に走り廻って、後日一月十五日を国の祝祭日すなわち成人の日として法制化された時の感激は一生忘れることは出来ません。

県の社会教育委員始め各種の役職を重ねてきて、出身校を聞かれる時、本校の卒業生であることを誇りをもって答えてきました。四人の子供を育てながら家庭と職場を両立させた時も学校時代色々学んだことが生かされて不自由を感じませんでした。母娘共々お世話になった本校の卒業生で良かったと満足しております。三十九年から同窓会の副会長に、四十五からPTAの副会長として兼任となりましたが以来共に責任を感じ自分の許せる条件の中で協力させて頂いて居ります。輝く本校の八十周年を迎えることが出来心から御祝い申し上げます。私たちは、友正先生の、そして学校の御恩は決して忘れることはありません。一人は一枚を代表するの気持ちを大切に諸先生方の教えを胸に今後も懸命に頑張って万分の一の御恩返しを心がけております。飛躍した本校の益々の御発展を祈ります。

### 点数はいつもアヒル

||ぎびしかつたしつけ||

同窓会副会長 大岡 テイ

創立八十周年記念を心からお祝申します。昭和七年、私の入学した時は女子高等職業学校という校名の時で創立者須賀栄子先生がお元気で教鞭をとっておられる頃でした。あれから何年たったか知らず、数えても数え切れない年月がたつたやうな気がします。卒業してからの長い年月。私がたくさんの方々ともめぐり会いました。また御立派な方からいろいろな感銘を受ける機会がたくさんありました。でも私のあれからの人生で一番尊敬する先生は、須賀栄子先生だと今も思っています。

私達が、校長先生から直接お教えいただいたのはお作法の時間でした。私は良い点数をとらなければと真剣に授業を受けたつもりですのに（誰もそのようでした）、通信簿の結果は何時も何時もアヒルのマーク「乙」でした。どのようにしたら「甲」になれるか悩んだのを覚えてます。それはそれはきびしい先生でもあり、又一面優しい先生でもありました。

私達が卒業を目前にした最後のお作法の時間のお話は、「これから皆様は世の中に出て立派な職業人になるのも良いでしょう。でも何時も忘れてはいけないことは「良い妻」「良い母」「良い家庭の人」になることです。どうか忘れないで下さい」と言うお話でした。その後母校も亡き校長先生より以上の立派な須賀友正先生があつたことが、女子の教育ひとすじに輝けられるそのお姿は須賀栄子先

生のおこころざしがそのまま受けつがれたお姿だと何時も感じておりました。

私は母のあとをついで和裁学校を経営しておりますが、須賀友正先生が校長先生であられた長い時期に栃木県和裁学校会長に就任していただきました。一方ならぬお世話様になりました。

お陰様で栃木県は全国でも有数の和裁学校の発展を見ることも出来ました。時代と共に少なくなりつつある「和裁の出来る人」の人口も当宇都宮においては優位を保ちつつ、それを求めて関西、東京方面から企業が進出して来るようになりました。

創立八十周年、長い歴史の間に益々発展される母校の姿を見るのが、私達卒業生には一番うれしいことです。理事長先生も益々御元気で、そして校長先生の御健闘を祈念しつつ拙文をつづりました。

### 既に他県からの入学者も

||私は大正三年の卒業生||

前同窓会長 福田 アキノ

本校は母校の創立八十周年を記念し、盛大な式典ならびに学校祭が催され、誠にめでとございます。

私は明治四十五年四月、当時宇都宮共和裁縫女学校といわれた本校に入学いたし、大正三年の春卒業いたしました。

校長は須賀栄子先生で、当時はまだ水道がなく、寄宿生だった私たちは井戸水を汲み上げて使わなければなりませんでした。私たちの卒業後の五月から水道が引かれたというように記憶しております。在校中は、主に裁縫が多く、水曜日には作文と習字の授業があり、

土曜日の同前中はお作法、午後は華道（活け花）を教えていた、という日課でした。

入学者は、その頃すでに福島県から二名、茨城県から三名と、五名の方々が私たちのクラスメートとして在学しておりました。

当時は、夏になりますと、大正天皇、皇后両陛下が日光の御用邸にお出になられるので、栄子校長先生、先頭に私達生徒全員が国鉄駅まで送迎に出向いたことなども、遠い思い出のひとつです。

寄宿生の帰省は、夏休みと正月休みで、汽車で帰省する者は人力車で宮駅まで行き、私等は日光街道の方でしたので、トロッコとかトテ馬車で帰ったものでした。

ちょうど今から数えますと六十五年前のことでした。

授業料は、驚くなけれ、一ヶ月が何んと六十銭という時代でした。時移り、人変わり、変わらぬものは本校の基本となった教育方針「一人は二校を代表する」という、この生活目標であることを、今も私の確信はゆるぎません。

母校も、短大の経営にふみこみ、高校も宇都宮短大附属高校と改称、益々盛大に発展しつづけ、躍進しつづけて行きますこと、ほんとうにおめでとうございます、と心からおよろこび申し上げる所です。

（前同窓会々長）

## 五十余年前の本校

### ― 役立ったしつけの数々 ―

釜 井 ス イ

省りみますれば、母校を卒業して最早や五十有数年、月日の過ぎ

お茶わんの持ち方、運び方、廊下でのすれ違い等の総てに試練の「道」を学び本当に役に立った次第でございます。何十年か経った後娘も母校に入学されました。お茶とお花を小林先生に導かれ指名によりまして、校長先生宅に生花を生けさせて戴くことになりました。未熟者ですが、内心得意でした。

母校は厳しい中にも他の学校に勝るとも劣るところはありません。社会人として、女性の在り方として恥ずかしくない評価をされ自信が湧きます。

今日のような楽しい世の中になればなる程、情操教育には是非とも宇都宮短大附属高校の正門に御期待下さいますようお願い申し上げます。

思い出としては全校生徒で、二荒山祈念祭参拝記念の写真も撮りました。本科生、研究生も全部参加しました。忘れられない思い出のひとつです。

## 百間堀時代の思い出

### バザーは本県での草分け

吉 沢 光 子

創立八十周年おめでとうございます。

創立者須賀栄子先生の胸像が同窓会の皆さんによってたてられた七十周年の御祝をしてからもう十年の月日が流れました。

るのは例の通り「水の流るる如し」。

大正時代の女学生の服装は自由着、海老茶袴に其他色物も少々ありました。履物は短靴に編上げ靴、学校の目印として、母校は紺色に二センチ半巾三本線白入りのベルト、前記章二センチ半円形に鹿の角の向い合い。袴の腰板から前に掛けてしめたのでした。

私は、友達三人で宝積寺駅へ十キロ歩き、汽車通でした。冬になると日が短いので男親に交る交る迎えに来て載りました。たまには流星も見ました。後ろ髪引かれる思いもありました。宇都宮駅に降りて又学校迄歩きます。通学している中、近道も覚えてきます。

学校は百軒堀と銀杏の木のある所でした。今の東武の南方辺だと思えます。お堀の池はかなり大きかったです。鯉が居りました。係の方かと思われる人が桶をやって居る姿も見受けました。

校門を入ると右側には木造の二階立ての職員室。門扉左側には専用の売店が三軒ありました。そこで裁縫の足りない教材をかうことになっておりました。

其中職員室の左側に校長先生の傍姿の銅像が建立されました。一礼は忘れずに。今思い出されますあの面影が……。校舎は木造の平家建て、綺麗でした。

校長先生は須賀栄子先生と申します。男勝り以上でスパルタ型、教育熱心で本当に厳しい中にも温情豊か。威厳があり、ご立派でした。校長先生は常に頭から目、心の目の筋の通った技群の持主でございました。

授業科目は、国語、算数、社会、綴方、体操、習字、洋裁、手芸、刺しゅう、作法、料理、生花、お作法は校長先生でした。当時は教室は畳でしたので歩き方座り方、戸障子の開け方閉め方人の応対、

明治生まれの私が田舎から来て来た時はまだ十五才の少女でしたが今は七十一才の齢を重ねてしまいました。

当時学校は今の校長住宅の所にあつて以前は宇都宮城のお堀百間堀がなみなみと水をたたえておりました。

創立者の須賀栄子先生は結婚もなさらずに女子教育のために一生を捧げられました。私も身近に教えを受けた一人でございます。

昭和二年私が研究科におりました時に初めて栃木県から無試験検定による小学校専科正教員と言う免許状を同級生三人といただき感激致しました。

その当時はバザーも盛大に行われ遠方からも大勢の方がお出になり生徒の製作品が飛ぶように売れて私達生徒はそれを誇りにしてよろこんだものでございます。

お元気だった栄子先生も六十代でこの世を去られましたことはかえすがえすも残念なことでございます。そして悲しみのなかに大勢の参列者によって校庭で校葬が行われ先生の御冥福をお祈りいたしました。

県立高校の校長であつた友正先生が校長になられました。校舎も拡張されて校庭は今の東武鉄道まで広がりました。埋め立てられて校庭となりスケート場も出来て生徒はよろこんで運動を盛んにやりました。

間もなく満州事變つづいて大東亜戦争となり、校舎は爆撃で全校舎校長住宅も全焼して生徒の自転車置場だけが残りました。

その時は私も結婚して近くに住んでおりましたのでお訪ねしましたら校長先生御夫妻は自転車置場で御不自由な生活をなさっていらしたことを忘れることが出来ません。

そして終戦兵舎であけた現在のところに移って新制高等学校として現在にいたっております。

友正先生も喜寿を迎えられ校長を御長男の淳先生にゆずられて須賀学園理事長として今も学校にお出でになっていらっしゃいます。幸いに卒業生の方が職員としてたくさんいらっしゃるので同窓会の事務を切盛して下さるので安心して会長副会長さんと心を合わせて微力を尽くしたいと考えております。

長い間同窓会会長としてお骨折り下さいました福田アキノ様も八十三歳になられて去年会長をおやめになられました。御礼を申し上げるとともに御健康を御祈りいたします。

最後に須賀学園の限りない発展を御祈りして筆をおく次第でございます。(昭和二年研究課卒業)

## お写真は今も仏壇に

|| 栄子先生と私の母 ||

吉 新 富 美

母は、ことし八十二歳です。大六年、御正校の前身、共和裁縫女学校を卒業しまして、その六月には日光へ嫁いで参りました。

現在は鹿沼市に入りましたが、古峰が原に近い西大芦村の山の中からお出で、寄宿生となり、二か年間勉強して参りました。有難いことに寝食を共にし、身近に、栄子先生の御薫陶をうけ、その二年の間に母は生涯の処生訓を身につけて下さって頂きました。

わが家の仏壇に、実家の両親の写真は飾ってございませぬが、新しい思い出として、忘れられないと申しております。(その兄も戦死してしまいました。)

御校創立七十周年の記念式典の折、母の代理として、私も出席させて頂きました。多くの卒業生の中にひとときを過ごし、そして、栄子先生の胸像を仰ぎました時、私は御校の卒業生でもあるように、万感心に去来して、胸熱くなる思いでございました。

「一人は一校を代表する」その校訓を、私は母の日常に見て参りました。偉大な栄子先生の御教訓、その教えを忠実に覚え、そして守り続けて参りました母。家事万端、その母の万分の一にも、何一つとして近づくことのできない自分を振り返る次第です。

栄子先生から、大正九年に頂いた達筆な筆書きの二通のお便りと、学生時代のベルトを母は今も大切に持っております。

御校の御発展を眼のあたりにしつつ、母と共に、心からお喜び申し上げ、感謝の誠を尽くしたいと存じます。

(八筆者は卒業生吉新(旧姓古沢)さんの御息女)

## 生涯の感激

記念式典に参加して

三年 若 林 悦 子

十一月六日、今日は、本校の創立80周年記念式典の日です。

このことは、ひとえに創立者、須賀栄子先生、二代目須賀友正、現淳両先生をはじめ諸先生の努力の結晶によるものだと思います。

好天に恵まれ式場も、宇都宮市文化会館大ホールにて開催されま

子先生のお写真は、今も掲げて、朝夕感謝の気持ちを捧げております。卒業後六十余年の現在も、「先生は、こうおっしゃった。こう教えてくださった」と、何につけても、口ぐせに申すことを聞きますと今なお先生が母の心の内に生き続けていることを、しみじみと感ぜずにはいられません。

足袋の洗い方一つにしましても、「親指と踵の所をこう持って」と、先生に教えて頂いた通りを申しております。

当時は、女大生という本を使いましたが、その他の教科書が少なかつたらしく、栄子先生のお話されることを筆記いたし、先生が「これは大切なことですから、よく覚えてください」とおっしゃることは、一字一句違わずに筆記し、母はそこへ〇印をつけておきましたので、試験にはいつも良い成績が取れました。

ところで初めのころ、試験が近づくと、消灯後、部屋にだれも居なくなるので、変に思っていると、皆さんはお手洗の近くにある、常夜灯の下に行つて、立ったまま、黙々と勉強して居るのでした。これには田舎の母は勉強の激しさにすっかり驚いてしまったそうです。

また、お茶番という課外の仕事があり、来客の接待には、お茶やお菓子を運ぶ役を致しお客様への礼儀や、もてなしなどを教えて頂いたと申しております。

母は、嫁ぎましてからのさまざま苦勞の中で、いつも栄子先生を心の支えとし、先生に話しかける気持で、もの事に処して参つたと申します。

初めての子供が生まれました時には、先生もとても喜んでくだされ、御来見のついでに、その子を抱いてくださったことなど、懐かした。会館を見るのは初めてなのでとにかく、外と内のスケールの大きさは、驚きました。

私たちは、八時五十分に整列し、十時に入場しました。午前中は全生徒、音楽科、短大生により君が代と校歌の斉唱を練習しました。やはり、人数が多いのでなかなか合わなくて、大変でした。どうしても、コーラスの方が大きい声を出すので、私達が何人いてもうまく行きませんでした。午後は会場が狭いので、三年生と二年の代表者が出場、一時三十分に本番の式典が始まりました。

お客様も、PTAの方々をはじめ来賓として県知事さん、宇都宮市長さん、国会議員の方々や、各界の代表の方々など、多勢の名士の方々の御参列のもとに、予定通り進行しました。

私は、テレビなどでしか見ることの出来ない船田譲さんや、森山まゆみさんなどのお姿を目のあたりにし、ほんとうにうれしく思いました。議員さんの中でも、衆議院議員の稲葉誠一さんや戸叶武さんの祝辞などは、昔の本校の姿などが折り込まれていてとても為になりました。

私の母の伯母なども、今生きていれば、80何歳かになるのですが初代の共和裁縫女学校の第一回の卒業生だったそうです。それから考えますと、私が須賀栄子先生の創立した、この学校に在学しているのも、何かの縁のように思われます。

この間の学校祭の時なども、一人のおばあさんが、「本校の一番初めの卒業生なんですよ」「今日は、友達と待ち合わせしてね。」なんてとても懐しそうに話しをしていました。私達から見れば大々先輩なのです。それから推しても、由緒ある伝統的な学校だと感じられます。

式も大詰を迎えて、祝歌合唱の音楽科、短大生が入場した時には回りはライトが消され、舞台には、皎々と明るいライトが照らされる中を、まるで一面に、純白の白鳥が並んだようで、三百名による「宇短大讃歌」の大合唱はもろろの事、とても印象的でした。閉会式も迫り、全員による校歌斉唱。最後とあって、みんな精一杯合唱した。なぜか、校長先生が述べる閉会式の言葉には、笑顔がありました。先生方もはっとした様子でした。私はこの須賀学園創立80周年式典という、記念すべき時に出会うことができ、本当に良かったと思います。同時にこのような伝統的な学園に学べる事を誇りに思い、これからはますます発展あれと心に思いました。最後に80周年記念式典本当におめでとうございます。ここにこうして毎日楽しく勉強できるのも、須賀栄子先生のおかげです、感謝いたします。

### 胸を張って進もう

八十周年の喜び

二年 館 沼 光 子

今年の十一月には、宇都宮短期大学附属高等学校も創立八十周年を迎えました。裁縫女学校として創立して以来ここまで来る道すじには、戦争で校舎が全焼してしまうなどいろいろな困難がありました。しかし、創立当時には家政科しかなかったにもかかわらず今では、それに誇

長い長い道 思い出 遠い夢  
創立八十周年の母校記念バザーの午後  
大々先輩のおばあさん ゆっくり見てってね  
——おばあさんの目にきらりと光るものを私は見た

### 創立八十周年を歌う

二年 佐 野 裕 子

八十年の重みが  
いま私の肩にのしかかる  
紙屑ひとつない清潔な学園  
熱のこもった指導  
そして  
誇るべき八十年の歴史と伝統

二十世紀をになう私たち  
学園百年のいしづえを築く私たち

覚悟を新たに  
さあ みんなで前進しよう

### 燃え続ける学園の灯

二年 青 柳 佳 子

業科、普通科、音楽科をはじめ他にあまり類がないといわれている調理科まで設けたことは、並たいていのことではなかったと思えます。県内でもこんなに多彩な科がある学校は、めずらしいことでしょう。校舎にしても鉄筋コンクリートの四階建てといったように近代化し、設備も充実して、りっぱになりました。学校祭にしても、他校ではみられない家政科、調理科の特色がいかんなく発揮されています。これからも、「一人は一人を代表する」という生活目標をまもり益々りっぱな高校になるよう、私たち一人一人ががんばって行きたいと思えます。

### 長い長い道 遠い夢

二年 松 本 る り 子

玄関先の噴水をめぐって  
華やかなバントワライズのパレード  
じっと身じろぎもせず  
さっさから見入っているおばあさん

卒業生かな いやいまいる生徒の家族かな  
いや 昔むかしの卒業生にちがいない  
その目がつめている遠い少女時代の幾春秋  
鉄筋四階建の校舎、そして音楽とパレード

清らかな理想に燃えつつ  
青春の日々をかけた  
我が学び舎  
いつまでも燃えつづける学園  
消えることなれ母校の灯よ  
友よ  
手を組んで  
さあ 学園百年を目ざして  
おおらかに 一歩一歩を踏みしめて行こうよ

### 誓いも新たに

一年 小 林 敏 子

明治 大正 昭和と  
時は流れて八十年  
あなたは 何を見 何を感じ 何を知ったのか  
戦争 そして平和  
生きる喜びそして生命の尊とさ  
社会 人類の進歩と科学の発達  
ああ 八十年という長い歴史の中で  
新しい伝統をそだて どっしりと生きつづけ たくましくそだて  
きた学園よ  
あなたの無言の教えを胸に  
わたしたちも進みます 九十年 百年を目ざして

# 80周年の喜びをうたう

三年間 板茂子

よろこび

誰にでもいろいろなよろこびがある  
入学・卒業 進学そして社会進出  
数えきれないほど  
みんなそのよろこびを  
心にひめている

いま、私のよろこびは  
学園創立八十周年の盛典に参加できること  
一生の思い出、感激にひたることのできること  
「一人は一枚を代表する」その一人としての自分を、身をもって  
体験できること  
ああ 有難し ありがたし  
校庭の椿の花も  
待ちきれず ほら一輪 二輪と  
咲きはじめたよ!

# 短歌



鈴木敦子 絵

栄光の日  
をうたう

I

三代の歴史のつばみ花開き香も芳ばしき学園の春  
学園の八十年を祝いつつ意気も心も熱え立つ若さ  
黙想で始まり終る一日の心に宿る明日への希望  
記念の日八十年の歴史あり新たな校風大いに起てる  
新しき思いを胸に創立の歩みをたどる学園の秋  
学園の歩みはここに八十年みんなで架けん百年の橋  
栄光の年に入学せしわれらの喜びよいかたうたわん  
明治生まれ八十歳を生きてなお意気盛んなる母校頼もし

三年 滝田 正子  
二年 杉山 悦子  
一年 橋壁 光彦  
三年 亀田 悦子  
二年 富沢 栄江  
嶋田 純子  
一年 野口 恵子  
三年 斎藤 晴美

八年十口には言えぬむすかしき歳月を經し学園の顔  
三代の歴史はここに八十の年を經たれど若々しかり  
国体と八十周年祝う年よろこび二倍の五十五年度

三年 五乙女英子  
石川 厚子  
針谷 俊江

万国博バザー日和の秋染し  
山茶花も祝う創立記念祭  
秋深し創立八十年バザー  
梅もとき活けて楽しむ学校祭

山中ひろみ  
福永百合子  
平田久美子

# 「俳句」

II

秋晴れや学校祭の華やける  
学校祭秋のころを寄せ合いて  
学園を彩る展示秋深し  
八十年過ぎ行く秋に心あり  
秋空に喚声あがる学園祭

三年 沼尾ひろ子  
三年 西沢 晴美  
三年 関川 昭子  
古川 久枝  
高木 伸子  
三年 床井 幸子

# 若い秋

手塚 武

讃歌いま堂湧き立たす若い秋  
学園の春秋そこに若い秋  
ひびき合う心とこころ秋澄めり  
澄む水の碧きところに目を見張る  
鐘鳴らせ十一月の枝光る

# 須賀学園

## 八十年の歩み

明治三十三年十一月三日 創立者、須賀栄子先生、宇都宮市鳩田町に共和裁縫教習所を創立す。  
明治三十四年七月 共和裁縫女学校と改称す。  
明治三十七年十月 宇都宮市日野町に移転、別科を置く。  
明治四十三年十月二十日 第一校舎を新築し、宇都宮市河原町（現在校長宅地）に移転す。  
明治四十四年十一月三日 創立十一周年記念式を挙行す。  
大正二年九月 第二校舎を増築す。  
大正四年十一月 大正天皇御大典記念として校旗を制定す。  
大正五年六月 第三校舎を増築、補習科を併設す。  
大正十年二月 編成を改め、補習科を第一専攻科、別科を第二専攻科と改称す。  
大正十二年 新校歌を制定す。  
大正十二年八月 第四、五校舎を増築す。  
大正十三年三月二十四日 校名を宇都宮須賀女学校と改称し、本科甲部（四年制）、本科乙部（二年制）を置き第一専攻科を研究科と改める。  
大正十三年十一月三日 創立二十五周年記念式を挙行す。  
昭和二年十一月 県下初のバザーを開催す。以後毎年開催し宇都宮の名物となる。  
昭和七年四月 校名を宇都宮女子高等職業学校と改称し、本科甲部を一部、本科乙部を二部と改める。  
昭和九年十月十四日 創立者、須賀栄子先生逝去、須賀友正現理事長就任す。  
昭和十一年十月十四日 同窓会によって創立者須賀栄子先生の銅像が建立される。本銅像は、昭和十九年戦争中の貴金属供出によって国に献納された。  
昭和二十年七月十二日 戦災によって全校舎焼失。  
昭和二十年九月 県立学校の校舎を借用して授業を再開す。  
昭和二十一年三月 宇都宮市西原町の現在地（元陸軍野砲連隊跡）に移転。  
昭和二十一年四月 須賀高等女学校に組織変更。  
昭和二十二年四月 学校改革により、須賀中学校を併設。  
昭和二十三年三月 財団法人須賀学園に組織変更  
昭和二十三年四月 学制改革により宇都宮須賀高等学校となる  
昭和二十四年十二月 須賀学園家庭専門部を併設す。  
昭和二十五年十一月三日 創立五十周年記念式を挙行す。  
昭和二十六年一月 私立学校法の施行により、学校法人須賀学園に組織変更。  
昭和二十八年十月十四日 創立者、須賀栄子先生二十年祭を挙行、全校生徒募す。

昭和二十八年十月二十九日 ソフトボール部、第八回国民体育大会に全国初優勝、市内祝賀パレードを行なう。  
昭和二十九年二月十一日 須賀講堂新築落成す。  
昭和三十三年四月二十九日 家庭科特別教室落成す。  
昭和三十三年十二月 第十回全日本高校優勝八月九日、第十三回国体優勝十月二十五日、第八回全関東優勝十一月十日。）  
昭和三十四年十一月二十五日 日本スポーツ賞受賞。  
昭和三十四年十一月三日 新校旗、新校章を制定す。  
昭和三十五年十二月二十日 創立六十周年記念第一回定期演奏会を開催す  
昭和三十六年二月十一日 創立六十周年記念式を挙行す。  
昭和三十六年九月十六日 体育館、新築落成す。  
昭和三十七年四月 制服改正（現行）  
昭和三十七年五月十四日 須賀友正校長、教育功労者として藍褒綬章を受賞す。  
昭和三十七年十一月三日 オークストラ、NHKに器楽合奏コンクール全国第二位となる。  
昭和三十八年十月十四日 創立者、須賀栄子先生三十年祭挙行、全校募す。  
昭和三十九年二月二十一日 鉄筋一号館新築落成す。  
昭和三十九年三月一日 音楽科設置  
昭和四十年一月二十二日 音楽科特別校舎新築落成す。  
昭和四十年十月十七日 宇都宮市下荒針町長坂グラウンド開設記念運動会を挙行す。  
昭和四十二年四月二十九日 宇都宮短期大学（音楽科）を設置。  
昭和四十三年七月十八日 副校長須賀淳先生就任。  
昭和四十三年九月一日 校名を宇都宮短期大学附属高等学校と改称す。  
昭和四十五年四月一日 高等学校に調理科を新設。  
昭和四十五年十二月三日 同窓会によって創立者、須賀栄子先生の胸像を再建す。  
昭和四十五年十一月 創立七十周年を記念して本館校舎り新築す  
昭和四十五年十二月四日 創立七十周年記念式を挙行す。  
昭和四十六年十一月三日 須賀友正先生、勲三等瑞宝章を拝受する。  
昭和四十八年四月 制服改制する。（現行）  
昭和四十九年五月一日 副校長須賀淳先生、第三代校長に就任する  
昭和四十九年六月二十九日 インターアクトクラブ発足する。  
昭和五十二年十月三十一日 宇都宮短期大学創立十周年記念式典を挙行する。  
昭和五十四年四月一日 高等学校に男子普通科特別進学コースを設置する。（五十五年女子も設置する）  
昭和五十四年十月十八日 学校保健統計調査優秀により文部大臣より表彰を受ける。  
昭和五十五年十一月六日 創立八十周年記念式典を挙行する。



## 本校創立八十周年に当って

校長 須賀

あつし  
淳



人間の仕事のなかでもっとも尊いものは教育であり、またもっともむづかしいものも教育であろう。それは対象が人間であるからである。人は十人十色それぞれ個性を持っている。教育はその個性にしたがつて、その人をそれぞれに伸ばしてやらなければならない。そして社会はつねに変動している。教育はその変動に即応してゆかなければならない。そこに教育の困難性がある。

本校は、今から八十年前、明治三十三年に私の祖母須賀榮子によって創立された。当時の規模は微々たるものであったろう。しかし、祖母の理想は高く、気概は強かった。そのため一生を独身で通して、学校の経営と理想の実現に全精力を傾注したのである。創立者の三十有余年にわたる本校の経営はまことに不撓不屈の権化といってよい。明治・大正期の社会には、官尊民卑の弊風が根づよく、私学は軽視され、圧迫されていた。それに時勢の変動と経済の消長は測り知れず、そのたびに学校の経営は影響されて、困難に陥ることもたびたびであった。その間における創立者の辛苦がなみなみならないものであったことは、「創立八十周年記念誌」の第二部「須賀学園

史料集(抄)」に載っている昭和五年創立三十周年に際して理事須賀正雄先生(創立者の兄、現理事長須賀友正先生の父)が起草した「学校設立ノ動機並ニ経営状況」を一読すれば、想い半ばに過ぎるものがある。

私学はみな独自の崇高な理想と信念によって設立されている。いわゆる建学の精神である。しかし時世はつねに移り変わりつつある。教育もまたその要求に応じて新しく脱皮してゆかなければならない。この間の調和こそもっとも大切なことである。古きのみを守っていいはならないし、また新しいものばかりを追っていてもいけない。孔子も「故きを温ねて新しきを知れば、以つて師たるべし」といつている。その温故の一環としてさきに「創立八十周年記念誌」が編集された。

本校は、昭和二十年七月の宇都宮大空襲の戦災にあつた。当時の校長須賀友正先生(現理事長・学長・私の父)は、身を挺して学籍簿をはじめ学校の重要書類および須賀家に伝わる古文書等を背負って防空壕に避難した。しかしこれらの学籍簿等は、消火の水と土塵の湿気のために腐蝕がはなはだしく、一枚一枚ていねいにはがしても、ぼろぼろの傷みは破損をいよいよひどくして、どうてい緋関にたえないのである。幸いにして、創立八十周年を前に複製の副本を作り、「須賀学園史料集」としてまとめられた。これは本校にとつて何物にも代えがたい貴重な記録である。

想えば本校は卒業生二万六千名、在校生二千四百名を擁する総合高等学校の偉容を誇りうるにいたつた。しかしこの偉大は一朝一夕にかちえたものではない。創立者が弱い女性の一身を賭して営々と築きあげてきた辛苦の賜である。世の諺にいう。「親苦しみ、子榮え、孫潰す」と。私はつねにこの諺を胸に秘め、自肅自戒もつて創立者の理想を継承して本校の経営に邁進したいと思う。

本校生徒の皆さんには、「創立八十周年記念誌」を熟読し、本校の建学の精神をよく理解して、「一人は一校を代表する」の生活目標のもとに、立派な悔いのない高校生活を送っていただきたいと念願している。

なお、「創立八十周年記念誌」は、

第一部 目で見ると八十周年史  
第二部 須賀学園史料集(抄)  
第三部 生徒会誌「ひめまつ」巻頭言集  
の三部から成っている。

第一部は、本校八十周年の長い歴史をやさしく簡単に見ていただくためのものであり、同窓生・職員その他の方々から貴重な写真や資料等の御提供をいただき、本校の教頭齋藤太嘉男および総務部長太田茂雄がまとめたものである。

第二部は、須賀家に伝わる古文書や本校創成の資料を、教諭河住玄(図書館長)が解説し、忠実に復元、整理してまとめた「須賀学園史料集」から、その一部を集録したものである。いわば明治の創成期から大正、昭和初期までの本校のなまの歴史である。

第三部は、第二代校長須賀友正が戦後三十年にわたり、生徒会誌「ひめまつ」に毎年執筆した巻頭言をまとめたもので、そこにはその年々の出来事や教育の指針が折り込まれており、戦後の本校の歴史をそのまま伝えてくれるものといえる。教諭手塚武(栃木県文化功労者)が編集した。

本書の編集にたずさわったこれらの先生方に厚く感謝の意を表するものである。

## 自主性をもって活動する

|| 新生徒会長の抱負 ||

二年 鈴 木 久 世



先日は、皆様多数の暖かいご支援をありがとうございました。御陰様で昭和五十六年度生徒会会長に就任することができました。一年二年と、評議会や生徒総会に室長として、生徒として参加していた私ですが、これからは、会長というそれらのまとめ役として、最善を尽くしていきたいと思えます。

さて、会長としてこれから一年間生徒会を運営していくにあたっての目標は、今までの生徒会を一步前進させて、私達生徒が、もっとも自主性を持って生徒会活動を行えるようにしていくことです。一瞬のうちに過ぎ去ってしまいうような短い高校生活なので、一日一日をより充実したものにすることを、生徒会活動中学校の中に生かし、理想的なものに高めていくではありませんか。

例えば、評議会については単なる行事計画オンリーではなく、クラスの諸問題、生徒の意見交換の場としての評議会にして、皆さんの一体化をより一層高めたいと思えます。また、生徒総会でも、私達生徒の一人一人が参加していくようにしたいのです。みなさんのひとことがまとまれば、それは大きな力となって、きっとよりよい生徒会ができていくはずだと思っています。そこで、私を含め生徒会役員も、ガラス張りの生徒会などといわれないような皆さんの意見に耳を傾け、積極的に行動し、問題解決への橋渡しをしていかなければならないと思えます。

ところで、今、私達の生活を振り返ってみますと、小さな枠内で、しかも不十分な活動しかされていなかったと思うのです。もっと視野を広げ、高校生として、本校生としてのプライドをもてるような学校生活を送れる私達でありたいと思います。ただ何となく過ぎ去ってしまいうような高校生活の中では、おそらく本校生としての誇りという

どうか、冒頭に言ったように、自分のことばとして、これ等の問題を取り上げ、「二似ってこれを貫く」の志をもって、要は自分の良しとするところを自分のものとして実行していいことだ。

先日卒業間近の三年生にその所信の一端をたずねたところ、殆んど解答を得られなかった。「あなたの心の支えとなっているものは何か」という問いかけだったが――

そこで私は、私の考えとして第一は家庭、第二は友達（できれば親友）、第三は体力（健康）の三つをあげた。そして、これらは総て「平和」あつてのことなのだということを強調しておいた。

これらは水や空気や光のように、無限の心の支えとなって私たちの生活の活力源となっているのだが、余りに身近にある物質精神であるだけに人たちは「みどり」がいかに大切なのか、人と自然との関わり合い、「人間の生きること」共存共栄の体を、それこそ全く意識していない証候なのだ。だから平気で自然破壊をやる。恐ろしいことだ。

また、生命尊重の問題にしても、私はこれからの人たち、特に若い父母や皆さん達に「テレビと読書」の両立についてお勧めした。

い。テレビは見るという方がむりなほど生活化し、読書はラマーメン一杯で一冊が買える良書が本屋の本棚にあふれているのに、ラマーメンや菓子パンの何分の一程にも買われていない。テレビはあなた達が弟妹達に、その映画の時代的、社会的背景をよく説明してやり、「現代」との違いを徹底させ、文芸作品のドドラマ化でも、これは営業化された商品なので原作とは違うんだ、原作を必ず読むように、という指導と、テレビは更に、駒切れカットの連続で、次から次と変化、流動する極めて散文的、かつ思考を散漫にするばかり。後には何も残らないナンセンスなものだということとを、徹底してたたき込んでほしいものである。もう一つ「生涯教育について」はおギヤと生まれた時から死ぬまでの全期間が生涯のことなので、高校教育をうけているあなた方はいま生涯教育受講中の真っ只中にあるという自覚をもっともって持ってもらいたいことを強調したい。



わたしの秘密

一年 川面洋子

中途半端な小さい夢を抱きながら私は今ここにいます

今の私の胸に写るものは何であろうかとまどい、まぼろしの未来、それとも……白い紙に包まれた四角いボックスはまだ開けたくない

それとおきたい

これから何年あることだろうか白いボックス誰にも気づかれずにそのままあって欲しいいつしかわかってしまうことだけで……私の秘密の宝であつて欲しい

いつになるかわからないけど

小さい夢から大きな夢にかわり、私が翼を広げ飛び立つ日が来たら

そつと、白い紙に包まれた四角いボックスを開けよう

その日まで、そのままに……

学園ニュース

創立八十周年記念だ

活発だった生徒総会

本年度の生徒総会は、「八十周年を契機として、私たちの学園生活を更に大きく前進させよう。」という議題のもとで開会されました。その具体案に、(一)学級委員を中心に、クラスの和と協力をはかろう。(二)学級文庫の充実をはかろう。(三)創立八十周年学校祭を成功させよう。の三つが上り、これらに対して、生徒のみならずさまざまな意見が寄せられました。

その中でも主として、創立八十周年学校祭を成功させようということが大きく浮き彫りされたことは、学校祭開催にあたって、大いに役立てられました。(次頁上段へ続く)

トピック

宇短大付高で入試

男子特進クラス 20倍の狭き門に挑む

「栃木新聞」掲載



県立高校入試の最終段階である、宇短大付高男子特進クラスの入試に、本格的に臨む。入試は、宇短大付高男子特進クラス。

栃木新聞の「宇短大付高男子特進クラス」の記事によると、入試は、宇短大付高男子特進クラスで行われ、普通科より倍率は20倍の狭き門を要する。入試は、宇短大付高男子特進クラスで行われ、普通科より倍率は20倍の狭き門を要する。入試は、宇短大付高男子特進クラスで行われ、普通科より倍率は20倍の狭き門を要する。入試は、宇短大付高男子特進クラスで行われ、普通科より倍率は20倍の狭き門を要する。入試は、宇短大付高男子特進クラスで行われ、普通科より倍率は20倍の狭き門を要する。

その他、数多くの要望が皆さんから、提案されましたが、本年度は種々の関係で達成できなかったもので、新生徒会役員および全校生徒の協力によって次年度以降に達成されることを期待いたします。それには、もっとみなさんの積極的な協力を切に願います。

### 異色ある学校祭 を盛り上げよう

恒例の宇短大附属高等学校祭は、去る十一月一日二日の二日間本校において盛大に行なわれた。

やはり今年は八十周年記念と言っただけに、全校生徒の意識がひときわ高まっていたようだ。しかし、校舎増築の関係上場所的には大きな規模で行なう事ができなかったが、二日間延べ七千人のお客様を、御呼び出された事はやはり八十周年という伝統の重さなのだと深く感謝している。

特に、調理科の体育館にての大食堂、展示品総バナー作りの「釣り人」が、目玉として人目をひいた。生徒会主催記念チャリティーバナー、プロ顔負けの家政科諸君の展示、外で

はパトン、プラスバンドの発表、とても三会場では消化しきれない位の若者の祭典に、充実した、そして楽しい二日間を過ごすことができた。

来年度は、三年に一度の大運動会であり、学校祭は小規模でしか行なう事ができないが二年後でもこの盛大な学校祭がなお更に発展するよう、特に一年生諸君は、頑張ってもらいたい。

本年度の実行委員は次のとおり。

▽委員長・沼尾 潔(三の九) 副委員長・安田 宏(三の八)・加藤裕子(二の十二) 会計・福田むつき(三の十四)・星野葉子(二の十三) 庶務・松井美樹(三の十)・鈴木倫子(一の四)

### 生徒会がユニセフ、歳末助け合い募金を寄託

十二月二十三日、本校生徒会では、十一月に開いた文化祭のチャリティー・バザールの益金の一部五万一千八百二十円をユニセフおよび歳末助け合い募金として、下野新聞社を訪れ寄託した。

同日、つづいて栃木新聞社を訪れた一行は同趣旨による益金としての四万一千二百二十円を同社に寄託した。代表は顧問の田南仁教諭会長吉井のぞみ、福田むつき、吉田晴美の皆さん。

### 喜ばれた敬老 の日の贈りもの

敬老の日の贈り物「礼状届く」

敬老の日には、結構な御祝品を頂き、誠にありがとうございました。三年間、毎年頂きましたので、おばあちゃんも感謝の気持ちでいっぱいです。娘も来年卒業しますので、おばあちゃんと一緒に、一生忘れられない品になると思います。生徒会の皆様、心あたたまる記念品を、本

お便りです。

△三年十二組の父兄、土屋伊代子さんの

当にありがとうございます。厚くお礼申し上げます。

この他、たくさんのお礼のお便りが届きました。

## 生徒会長は鈴木久世に 期待される新年度の活躍

昭和五十六年度生徒会々々長・副会長の立会演説会及び選挙が二十日に行なわれた。

演説の方では、立候補者、応援弁士ともそれぞれ個性を出そうと工夫をこらし、一生懸命渾身の力をかためて奮戦した。

また、得票結果は次の通りです。

△会長

- 九二二票 二一十二 鈴木 久世(普)
  - 四五四票 二一四 大出 峰子(家)
  - 三六八票 二一三 星野 葉子(商)
  - 一三七票 二一五 矢古宇弘美(家)
- △副会長
- 五七六票 一一三 高橋 靖子(普)
  - 四八三票 一一一 堀内由美子(普)
  - 三〇七票 一一五 鶴見 恵(商)
  - 二八三票 一一五 加藤 久美(家)

敬老の日だけではなく、日ごろから、お年寄りには、暖かい目を向け、大切にいたわり

した。

一九四票 一一二 松永 昌子(家)

右の成果により、学校当局の正規の手続きにより、最高票取得者がそれぞれ、会長、副会長に任命され、新年度からの新しい活動に各方面からの大きい期待が寄せられている。なお、新旧会長の抱負および謝辞は、本誌冒頭に寄せられているとおりである。

### 本年度読書感想文 の入選者

- (一年)
- |             |   |       |
|-------------|---|-------|
| 一位「人間失格」    | 組 | 藤田 安秀 |
| 二位「禁じられた遊び」 | 9 | 伊藤 順子 |

- |              |    |       |
|--------------|----|-------|
| 三位「アンネの日記」   | 11 | 今井江以子 |
| 三位「潮騒」       | 14 | 檜野 朋子 |
| 佳作「走れメロス」    | 1  | 吉川 敬子 |
| 「あすなろ物語」     | 2  | 斎藤 厚子 |
| 「生命ある日に」     | 3  | 蛭田実千代 |
| 「お兄ちゃんが一番ほし」 | 4  | 野口 恵子 |
| 「アンクルトム物語」   | 5  | 飯野多佳子 |
| 「走れメロス」      | 6  | 秋山 明美 |
| 「老人と海」       | 7  | 天谷 春男 |
| 佳作「塩狩峠」      | 8  | 芳田 節子 |
| 「アフリカの神話的世界」 | 9  | 上野 和宏 |
| 「蜘蛛の糸」       | 10 | 古沢 典子 |
| 「二十四の瞳」      | 11 | 荒井 真理 |
| 「人間失格」       | 12 | 岩井岐美子 |

13	金子 吹子	「人間失格」
14	野中 道子	「老人と海」
15	高橋真由美	「たとえはくばくに明日はなくても」
16	吉成かつい	「アンネの日記」
17	一重 佳子	「リーパス」
組		(三年)
1	進藤 裕子	一位「路傍の石」
2	杉山 悦子	二位「野火」
3	大貫 裕子	三位「人間失格」
4	篠崎 初枝	佳作「アンネの日記」
5	関 玲子	「野菊の墓」
6	宮子 雅枝	「飛翔」
7	大出 峰子	「鼻」
8	金子 保代	「路傍の石」
9	福田ゆう子	「遠い星からの手紙」
10	上野 隆夫	「人間失格」
11	塚田 綾子	佳作「真実一路」
12	岩瀬 昌利	「蟹工船」
13	糸井 友子	「黒い御飯」
14	木下 正美	「人間失格」
15	市原 佐和	「ひめゆりの塔」
16	向原 栄枝	「古都」
17	黒崎 洋子	「雪国」
18		「アンクルトムズ・ケビン」
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		
31		
32		
33		
34		
35		
36		
37		
38		
39		
40		
41		
42		
43		
44		
45		
46		
47		
48		
49		
50		
51		
52		
53		
54		
55		
56		
57		
58		
59		
60		
61		
62		
63		
64		
65		
66		
67		
68		
69		
70		
71		
72		
73		
74		
75		
76		
77		
78		
79		
80		
81		
82		
83		
84		
85		
86		
87		
88		
89		
90		
91		
92		
93		
94		
95		
96		
97		
98		
99		
100		

### PTA総会

活発な意見が続出

五十五年度PTA総会は六月七日(土)開  
会、会長松岡祐祥氏が議長に推され、とど  
おりなく予定の議事を終了。引きつづきPT  
A支部長会議を開催、本年度の活動方針お  
び前年度の反省などをおりませ、活発な意見  
発表が行なわれ、今年秋催うされる本校創立  
八十周年記念行事への布石が早くもしかれた  
観があり多大の成果をおさめた。なお恒例の  
本部役員、各支部長、学校側の合同懇親会も  
本年度は特に熱気に充ち盛会だった。

### PTAの研修旅行

尾瀬を望む沼山峠へ

PTA研修旅行も、回を重ねること十一回  
目、毎年、親睦、反省、研さんの行事として  
実績をあげつつあり、各支部の夏期総会のし  
めくくりとして、また楽しい集いで例年参加  
者が増大していくことは誠に喜ばしく、また

心強い。

本年度は去年の中尊寺から、自然探索へと  
一変、尾瀬をはるかに眺望できる、また尾瀬  
への最短距離の地理的実感をたしかめようと  
の意図もあって、次のようなコースを開拓し  
た。

九月二十日午後本校を出発、五十里、山王  
峠を越えて四時二十分、予定どおり「塔の合  
つり」へ到着。山王峠あたりは折から山百合  
の花も見られ、おいしい空気がいっぱい。戦  
々たる岩山や清流を眺めつつ車を走らせ、予  
定どおり五時、芦の牧温泉へ到着。ここは会  
津若松市に所属する仙境。福島県人の憩の里  
ともいえる。

とうもろこしの、またきのこのおいしかっ  
たこと。

研修会は予定のプログラムにしたがって二  
時間にわたり活発、かつ有意義な建設的意見  
がたたかわされ、本校発展のために尽力を五  
しまない会員の皆さん方の意気込みにはた  
だ感動の外なかった。

翌二十一日は早朝出発、田島から瀧の原へ  
そして本日の目玉である尾瀬沼への最短路  
(女子供連れでも大丈夫行ける)槍枝峠へ着  
いたのが予定の十時。それからしばらく行き

一行は車を槍枝峠下のレストハウスへ預けて  
坂道を上る。まもなく沼山峠の頂上へ。峠を  
少し下ると展望台があり、ここから尾瀬沼、  
長蔵小屋、猿岳などを一眺し、時間の関係  
で沼までのハイキングは断念。再び槍枝峠の  
部落へ戻り、民芸品を備めたり六地藏や旧能  
舞台などを見学して、ひる近く、尾瀬沼との  
別れをおしめながら、一同元気で、無事帰校  
した。

当日の参加者はつぎのとおり。

▽父兄側 松岡祐祥、篠崎キミエ、秋山紀典  
渡辺衛、山田健二、高山源吉、六川彦次、中  
島至一、中村常二、川台甫、布施茂任、針谷  
仁、岡田和子、手塚茂利、大岡清、間島幸子  
佐藤三郎、片岡港、鈴木仁、福田良幸、森田  
博、斉藤成典、廻谷隆亮、篠原孝、岡田森、  
星野裕一氏。

▽学校側 校長、太田、三矢、金田の諸先生

二級合格者が続々

全国高校家庭部会の検定

全国高校家庭部会主催の家庭科検定二級合  
格者は例年どおり次のような好成绩を残し、

### 校内珠算検定合格者

このほど証書の伝達式をおこなった。

和裁の部 四九名 代表 後藤 洋子  
洋裁の部 一二名 藍原 正子  
食物の部 二九四名 大橋 保子

▽一級 坂寄佐紀子、二年、二級 河内二美  
二級 他七名、三級 二四名、四級 二〇  
名、五級 三三名、六級 二七名

校内和文タイプ検定合格者

▽三級 松本明美他 四級 六十四名

全国経理学校簿記検定合格者

▽二級 吉良伸子(二年) 他十七名、三級 二  
十二名、四級 五名

珠算検定合格者

## ▽日本珠算連盟

### ▽日本珠算連盟

暗算の部で二年十五組坂寄佐紀さんが活躍して二位。除算の部で二段に合格、伝票算では三段に合格するという好成績を収めた。

### ▽全国珠算教育連盟珠算検定

一級・川井順子外一名(三年)  
二級・五名、三級・四五名、四級・八名。

### ▽全国珠算教育連盟珠算検定

二級・岡田千恵子他一名、三級二十四名

## 楽しく有意義

### 商業科後援会の研修旅行

八月二十二日(金)・二十三日(土)の両日、第四回商業科後援会役員研修旅行が東山温泉・ホテル松島閣で開催された。

八月二十二日午前九時、学校を出発し、東北自動車道を快適に走り、途中猪苗代で昼食後、志を得ざれば、再び此地を踏まず、世

に知られている野口英世の生家・記念館を見学し記念撮影の後、さらに北進し、狭い通りに落ちついた、ただ住いをもっている蔵の町喜多方に着く。ここで、弥右衛門酒で知られる寛政二年創業の大和川酒造店や座敷蔵で知られている甲斐本店等を見学した後、熊野神社(雑葉記によれば、前九年の後で、源頼義が陸奥征討に赴いたとき、成果を祈って天喜三年「一〇五五」、紀州熊野から代田組熊野堂村に勧請鎮座したのが始まりと伝えられている。)を参詣し、午後五時頃詩情あふれる東山温泉の庄助いわれの店ホテル松島閣に着く。早速、庄助風呂に飛び込み、つかれをいやし、午後六時からホテルの会議室で研修に入る。

吉井会長・事務局・阿久津前会長の挨拶について事務局から経過報告(松本先生)現況報告(信夫先生)に続いて伊沢先生の進路指導講話等が行なわれ、質疑応答の後、最後に商業科同窓会会則の検討を行ない、盛況の内に一時間三十分わたる研修が終る。

午後七時三十分から会場を移し、検査の妨を困んで庄助焼を舌つみをうちながら懇親会が開かれて余興等も出て、親睦を深め、午後九時算は幕を下した。

翌日。会津武家屋敷(江戸末期の戊辰戦後で焼失したが、追手門前に在った家老西郷頼母邸の復元したものや、会津歴史資料館、中畑陣屋白河藩藩末精末所、蒲生氏郷によって庇護された利久の子千少庵の流れをくむ、嶺南庵隣閣、縄文館等がある。)

鶴ヶ城(至徳元年(一三八四年)鷹名直盛が築城し、天正十八年(一五八九年)蒲生氏郷が増築し、初めて若松城といわれ後、明治維新官軍に攻められ、明治四年(一八七一年)陥城となったもの。)

飯盛山(昼食)(白虎隊(十六、七才総数三百二十四名)最後の地で自刃した十九名の隊士の墓や彼らの木像を安置した宇賀拝堂、記念館などがある。)

塔のへつり(第三紀層からなる凝灰岩などの岩壁で川の浸食と風化作用によりできている。)などを見学し若干おくれたが、五時三十分頃無事に帰校した。

今年は何年になく参加者も多く、意義深い実りのある研修会が終った。

村山ユキ子、小林孝子、山本文子、溜池春吉、長峰彦太郎、川俣勝子、板橋藤江、学校側―伊沢雪天、松本照子、信夫先生の諸先生。

## 白糸の滝から身延へ

### 家政科後援会の研修旅行

日頃活躍くださっておられます役員各位の労をねぎらうために、幹事の方々のお骨折りで、八月二十三、四日の両日にかけて山梨方面の研修旅行が実施されました。総勢二十二名。午前七時三十分、予定通り学校を出発。鹿沼ICから富士ICを経て第一の見学地、白糸の滝へ到着しました。あいにくの小雨、足もとに気をつけながら滝壺に近よると、そばふる霧雨と滝のしぶきが重なって、その景は誠に荘観でした。次の見学地身延山についていた時には雨も上がり一行は強切って石段を登り始めましたが、余りにも高い石段のため途中で引き返す方も出て、結局五、六名しかご本堂にはお詣りに行けませんでした。年でしょう

か……。宿泊先の石和観光ホテルに到着したのは陽暮れ方でした。先ずは疲れをとってから研修会に入ろうということで、誘い合せて入浴……まではよかったのですが、ロッカーが独りで閉まってしまい、はだかで大あわてというハプニングが女子風呂にありました。研修会では皆さん大変おしとやかでしたが、食事が始まってからの自己紹介の折には、一年の役員さん方、附属高校の家政科に娘がお世話になってよかった。と同じような喜びの言葉に胸がジーンとなりました。

翌日はワイン工場を見学し、のみ放題のワインに一同の頬は紅をさし、若さを加えて宝石工場へと見学の歩を進めました。一見するとつまらない石ですが、人工を加えるとあんなにも素晴らしいまはゆいばかりの寶石に変化する様には只々驚くばかりでした。久しぶりに昇仙峡で汗を流し、滝を背景に記念の写真を撮ると、最後のコース、フルーツ狩りをしました。小型トラックに乗り(都会では交通違反で罰金ですネ)ぶどうばたけに行き、甘い香りのたたく下をかかんで歩き、おもちやのような鉄で大きな房を切りながら、洗いもしないぶどうを両手にかかえての立ち喰い、お腹がふくらむ程で馳走になりました

勝沼IC・八王子IC・久喜ICを経て鹿沼ICにさしかかる頃、雷雨に逢いましたが、車中一段と親睦を深め、楽しく帰校いたしました。

参加者は次のとおりです。

父兄側―金辺金次郎・岩下考宏・中山御民・鈴木春雄・秋山記典・小貫栄次・石川順・吉村孝・小堀久子・鈴木一郎・大出公市・寄川秀子・平野カヨ・野沢チヨ・小池コウ・宮本須美枝・福永良子・内田警子の皆さん。

学校側―齋藤教頭・三矢・渡辺・高野沢(旧職員)の先生方。(渡辺記)

なお、当日ご参加くださった鹿沼市の平野カヨさんから、次のようなお便りが寄せられましたので、掲載させていただきます。

前略 先日は大変お世話になりました。教頭先生はじめ諸先生とご一緒できて、楽しく、意義深い研修旅行ができましたこと、一生の思い出として、私の胸にあたたかく鼓動しつづけて行くことでしょう。企画、日程もすばらしく、本堂に行つてよかったと心から感謝いたしております。

大杉の青き繁りて身延山てうごうしもよ古りし手すりは